

秋山海軍少佐講述

海軍應用戰術

海軍大學校

海軍應用戰術

緒言

本日ヨリ應用戰術ノ講究ニ入リマス。此應用戰術ナルモノハ吾々ガ已ニ講究シマシタ處ノ基本戰術ヲ如何ニシテ實際ニ應用スベキカヲ攻究スル處ノ兵學ノ一科程デアリマシテ、素ヨリ特ニ應用戰術ト称スル戰術ガ之レアルト云フノデアリマセン。唯ダ學術上ノ便宜ヨリ設ケラレタル科別ノ名称デ、丁度基本化學、應用化學、或ハ基本三角術、應用三角術ト称別スルガ如キモノデアリマス。若シ之レニ適當ノ名称ヲ下セバ應用戰術ト謂フヨリハ寧ロ戰術ノ應用法トデモ称スル方ガ至當カモ知レマセン。然シナガラ又基本ノ原則ヲ實地ニ應用シテ現實ニ戰鬥スル活術ガ戰術デアルト云フ見地ヨリスレバ、之ヲ應用戰術ト称シテモ敢テ差支ハアリマセン。

近世諸學術ノ講究法ヲ見マスルニ凡テ簡易ナル學術ハ大抵其ノ基本的智識ノミヲ座上ニ攻究シマシテ、之レガ應用ノ方法ニ至リテハ別ニ之ヲ攻究セズシテ直ニ其ノ基本的智

識ヲ實際ニ活用シ事業ヲ遂行スル様ニナツテ居リマスガ、複雑ナル學術ニナリマスト、基本的講究ニ次デ更ニ其應用ニ要スル智識ヲモ座上ニ研得セシムルヲ教例トシテ居リマス。例ヘバ彼ノ柔術ノ如キ至極簡易ナル技術ハ先ヅ其ノ基本戰術トモ謂フベキ型カタヲ一通リ習得シ、次デ直ニ乱ラド捉ニ入りマシテ、實際ニ活用シナガラ稽古ヲ積ムヨウニナツテ居リマスガ、複雑ナル技術ニナルト斯克ノ如ク基本ノ型カラ直接實用ト云フ次第ニハ行カズ、又其ノ應用法ニ関スル特別ノ智識ヲ要シマス。海軍戰術ニ於テモ亦其ノ型トモ謂フベキ基本戰術ニテハ艦隊ノ編制トカ、隊形トカ、運動法トカ或ハ戰法トカノ如キモノヲ攻究シテアリマスガ、偕テ之ヲ實際ニ應用スルニ當リテハ基本的戰術以外ニ尚ホ時ト場合ニ處スル應用上ノ変化、及之レニ要スル心術、其心術ト方術ノ關係等ノ如キ凡テ應用ニ際シ必要ナル素識ヲ研得練磨シ置カナケレバナリマセン。是レ即チ海軍戰術ノ講究ニモ應用戰術ノ一科ガ設ケラレタル所以デアリマス。兎ニ角基本ト云ヒ又應用ト云ヒ唯ダ戰術講究上ノ科別デ、戰術其物ニ異ナル處ハ無イノデアリマス。

偕テ然ラバ此應用戰術ヲ如何ニシテ座上ニテ研究スルカト云ヘバ固ヨリ無形ノ心術ニテ、彼ノ基本的方術ノ如ク數理又ハ形式ヲ以テ名狀説明ノ出来難イモノデアリマスカラ、多クハ古来ノ戰例ヲ引キ、或ハ特ニ新戰例ヲ假想シテ、各種ノ場合ニ於テ對抗軍ノ成敗利鈍ノ因テ起ル原因并ニ之レヨリ生ズル結果等ヲ討究シテ、戰術應用ノ利害得失ヲ考查シ、以テ應用ニ要スル吾人ノ智識ヲ練磨スルノデアリマス。

兎ニ角諸他ノ學術ト同様ニ、此戰術ニ於テモ真髓肝心ト云フ處ハ多ク應用ノ部ニ存シ

テ居リマシテ、應用ノ適合ニ依リテ成功失敗ノ分カルルモノデアリマスカラ、単ニ斯ク座上ニテ應用ノ方法ヲ講究スルノミナラズ、尚ホ實戰又ハ演習等ニ臨ミ實際ノ場數ヲ履ンデ修練ヲ積ミ、應用ニ熟達セル戦士トナラナケレバナリマセン。世ニハ往々百ノ基本的素識ヲ有シテ十ニサヘ應用ノ出来ザル人士モアレバ、又十ノモノヲ百ニ變化シテ自在ニ應用スル達人モアリマスガ、吾々ノ期望スル處ハ前者ヨリ寧ロ後者デ、出来得レバ百ノ基本的智識ヲ得テ、千ニモ萬ニモ應用シタキ次第デアリマス。

明治三十六年九月

秋山海軍少佐

第一章 総説

第一節 戦略ト戰鬥ノ關係

(作戰目的及計畫) 凡ソ戦争若クハ戰役ニ於テ、對抗軍ノ目的トスル處ハ其作戰ノ攻勢ナルト守勢ナルヲ問ハズ、一ツニ敵ヲ屈スルニアリ。此目的ヲ達センガ為メニ取ル處ノ手段多々アリテ、或ハ敵ノ兵力ヲ殲滅シ、或ハ敵ノ要地ヲ占略シ、或ハ敵ノ兵資ヲ奪略シ、或ハ敵ノ交通ヲ遮断スル等ノ如キ、何レモ敵ノ抵抗力ヲ減殺シテ痛困ヲ感セシメ、遂ニ我ニ屈服スルノ已ムヲ得ザルニ至ラシメンガ為メナリ。此等ノ手段ヲ撰ムニハ固ヨリ寸毫モ制限アルコトナク、如何ナル手段ヲ取ルモ敵ノ屈スルノ目的ニ適合スレバ可ナリ。此等ノ手段ヲ指シテ兵術上ニ於テ作戰目的ト称ス。手段ヲ目的ト謂フハ聊カ奇ナリト雖モ、凡百ノ人事皆ナスクノ如キモノニテ、目的ヲ達センガ為メニ手段ヲ生ジ、手段ヲ遂行センガ為メニ又第二ノ目的ヲ生ジ、即チ第一ノ手段ガ第二ノ目的トナリ、其又第二ノ手段ガ第三ノ目的トナルモノナリ。例ヘバ身体ヲ健全ナラシムルノ目的ヲ達セシメニ轉地若クハ運動ト云フガ如キ手段ヲ取り、其又運動スルト云フ第二ノ目的ヲ達スル為メニ柔術或ハ水泳ヲスルガ如キ第二ノ手段ノ生ズルハ一般ナリ。即チ戦争又ハ戰

役ニ於テ直接ノ目的トスル所ハ敵ヲ屈スルニアレドモ、其作戰目的ハ直接ノ目的ヲ達スル為メニ取りタル手段、例へバ敵ノ要地ヲ占領スルト云フガ如キ手段ヲ指シテ謂フナリ。故ニ作戰目的ハ時ノ戦勢ニ準ジ種々アルモノニテ、或ハ敵ノ全軍ヲ殲滅セントスルコトモアレバ、或ハ其一部ヲ撃破セントスルコトモアリ、又ハ単ニ敵ノ交通線ヲ遮断セントスルモノモアレバ、或ハ又敵ノ要地ヲ占略セントスル等ノコトモアルナリ。即チ此等ノ作戰目的ヲ決定シ軍隊ヲ其戦域内ニ運用シテ之ヲ達成セントスル技術ヲ戦略ト謂ヒ、其計畫ヲ作戰計畫ト謂フナリ。(本編ニ謂フ處ノ戦略ハ凡テ直接ニ戰鬥ヲ支配スル戦略ヲ指スモノニテ、戦役以上ヲ支配スル大戦略等ヲ指スニハアラズ。)

(戦略ノ要旨) 作戰目的ガ種々アリテ之ヲ達成セントスル技術ヲ戦略トスルコト前述セルガ如シ。然ラバ戦略ハ又如何ナル第二ノ手段ヲ以テ其決定セル作戰目的ヲ達成セントスルカ、此第二ノ手段モ亦多々アラザル可ラズ。戰鬥、封鎖、牽制、佯撃、陽動、威嚇、誘致等ノ如キ皆此手段ニ属スルモノニテ、戰鬥ナル破壊手段ハ實ニ其内ノ一手段ニ過キズ。故ニ戦略ハ其作戰目的ヲ達成スルノ手段トシテ常ニ必ヅシモ戰鬥ヲ撰ムモノニアラズシテ、為シ得レバ戰鬥以外ノ他ノ非戰鬥手段ニ依ラント欲スルモノナリ。例へバ茲ニ敵ノ兵力ヲ殲滅セントスル作戰目的ヲ達セントスル戦略ニ於テ、一見直ニ我兵力ヲ以テ敵ト衝突シ戰鬥ヲ以テ力ヅクニ敵ヲ撃滅セントスルカノ如ク思惟サルト雖モ、戦略ハ此場合ニ於テスラ尚ホ為シ得ル限り戰鬥ヲ避ケ我ガ損害ヲ出来得ル限り少クシテ敵

ノ勢力ヲ挫カントシ濫リニ力戰奮鬥ヲ要求スルモノニアラズ。今マ實例ヲ引ヒテ之ヲ證明センニ、日清戰爭ノ山東役ニ於テ我ガ日軍ハ威海衛ニ現存セル敵ノ艦隊ヲ殲滅スルヲ作戰目的トシ、此ノ目的ニ對スル作戰計画ノ概要ハ、我ガ艦隊ノ主力ガ海上ヨリ間接ニ敵ヲ威海衛ニ封鎖シ、又其一部ハ登州府ヲ佯撃シテ陸上ノ敵ヲ四方ニ牽制シ、東方ヨリ威海衛ノ陸上背面ニ進出シテ他部トノ連絡ヲ遮断シ、以テ敵ヲ屈セントシタリ。此戰略實施ノ結果ハ頗ル良好ニシテ、海陸共ニ大ナル戰鬥ナク唯ダ僅カニ我水雷艇隊ノ夜襲、二三砲臺ニ對スル威嚇砲撃及水雷艇隊ノ追撃ニ止リ、海上ニ於テハ主力ト主力トノ衝突トモ認ムベキ大戰鬥ナク、又陸上ニ於テモ僅カニ前衛部隊ノ衝突ノミニテ、全師団ノ戰鬥トシテ見ルベキ現象ハ更ニ無カリシ。然ルニ敵ハ海上ヨリハ威壓セラレ、陸上ハ連絡ヲ断タレ、遂ニ力屈シテ降伏スルノ已ムナキニ至リ、北洋艦隊ハ茲ニ全滅シテ、我ガ其作戰目的ヲ達スルヲ得タリ。之ヲ以テ見ルニ、山東役ノ作戰目的ハ或程度迄戰鬥以外ノ他ノ手段ヲ併用シメル戰略上ノ成功ニ歸セザルヲ得ズ。之レ即チ古ノ兵家ノ所謂「百戰百勝ハ善ノ善ナルモノニアラズ、戰ハズシテ敵ヲ屈スル之ヲ善ノ善ナルモノト謂フ」ナル兵術ノ要旨ニ或ル程度迄適合シタルモノニシテ、今若シ前述シタル水雷艇ノ夜襲モ陸上ノ小戰鬥モナクシテ、全ク海陸ノ壓迫ト登州府ノ牽制砲撃等ノ如キ手段ノミニ依リテ威海衛ガ陥落シタリト假定スレバ、之レゾ即チ真正ノ善ノ善ナルモノナルベシ。左ナキダニ、山東役ノ戦果ハ頗ル多大ナルモノニテ、我軍ノ損害ノ僅少ナルニ反シ、敵ハ一時ニ定遠、鎮遠ヲ始メ速遠、靖遠、濟遠、平遠、廣丙、其他砲艦水雷艇等十数隻ヲ失ヒ、

加之陸兵ノ大部并ニ劉公島ノ要地ヲモ失フタルモノニテ、斯クノ如ク完全ニ作戰目的ヲ達シ得タル戰略ハ戰鬥ヨリハ寧口他ノ手段ニ依ル處多カリシナリ。

更ニ他ノ一實例ヲ引カンニ、全ク日清戦争第一段ニ於テ日軍ノ作戰目的ハ敵ノ最強要地タル旅順口ヲ占領セントスルニアリシ。而シテ此ノ作戰ニ於ケル戰略實施ノ現象如何ト觀察スルニ、曩ニ朝鮮半島役ニテ平壤ニ勝チタル我陸軍第一軍ハ徐々ニ満州境上ニ向ツテ北進シ、之ガ為メ此方面ニ清軍ノ大部分ヲ牽制誘致シ関東半島ノ衛戍長官タリシ宋慶ノ如キモ殆ンド其麾下ノ全力ヲ率ヒテ鳳凰城付近ニ出テ来レリ。又黄海ニ勝チタル艦隊ハ海上ヲ制壓シテ事實上ニ於テ金州半島三面ヲ包鎖シ陸上蓋平方面ヨリノ外旅順ニ援軍ノ来加スルヲ阻止セリ。即チ第一軍ノ鴨綠江付近ニ於ケル牽制動作ト艦隊ノ海上制壓トガ相俟ツテ殆ンド旅順方面ヲ空虚ナラシメ旅順大連ニ於ケル敵ノ守備ハ多クハ付近ノ新募兵等ニ委任サレタル有様ナリシ。此ニ於テ大同江ニ集合セル我第二軍ガ中間地点ト謂フベキ花園河口ニ上陸シテ急速金州方面ニ進出シ、敵ノ唯一ノ北方交通線ヲ遮断シタルヲ以テ、関東半島ハ全ク四面ノ交通ヲ絶タレ、最早囊中ノ物トナリ、大連モ旅順モ此時既ニ陥落シタリト認メテ可ナリ。蓋シ第二軍ガ金州、大連、旅順ノ如キ敵ノ諸要地ヲ何レモ半日若クハ一日ノ戰鬥ヲ以テ容易ク占略シ得タルモノハ、前述ノ戰略能ク其効ヲ奏シ各地ニ於ケル敵ノ抵抗力比較的減少シタルガ為メニシテ、若シ宋慶ノ率ヒタル大軍ガ大連、金州等ニ屯在シ、又海上ヲ経テ天津等ヨリ旅順ニ増援ノ到着シタランニハ、第二軍如何ニ精悍ナリトモ斯ク容易ク攻略ノ功ヲ奏スルコト能ハザリシナルベシ。

此實例ニ就テ觀察スルモ、作戰ノ成功ハ或程度迄戰略ニ歸スルコト明白ニシテ、今又假リニ此作戰ニ於テ旅順、大連等ノ敵ノ抵抗ガ皆無トナル迄ニ其戰略ガ成功シタリトスレバ、第二軍ハ刃ニ血ヌラズシテ作戰目的タル敵ノ要地ヲ占略スルヲ得、作戰ハ全然戰略ノ成功ニ歸シテ戰鬥ノ現象ヲ見ザリシナラン。孫子ガ「城ヲ拔ク之ヲ攻ムルニアラザルナリ」ト説キシハ蓋シ斯クノ如キヲ謂フナリ。是ヲ以テ之ヲ見ルモ、戰略ハ常ニ戰鬥ヲ主要ノ手段ト為サズ、却テ之レ無クシテ目的ヲ達スルヲ上乘トシ、其要旨トスル處ハ即チ「戰ハズシテ敵ヲ屈スル」ノ一句ニ歸スルナリ。

之ヲ要スルニ戰爭若クハ戰役ニ於ケル對抗軍ノ作戰目的ハ単ニ敵ノ移動兵力ノミニ對スルニアラズ、固定要点アリ、移動物質アリ、又無形ノ交通連絡等モアリテ、此等種々ノ作戰目的ヲ達スル為ニ取ルベキ手段ハ更ニ益々多々之レアリ。必ズシモ常ニ戰鬥ヲ事トスルニアラズ。戰略ノ要旨ハ寧ロ戰鬥ヲ避ケテ作戰目的ヲ達スルヲ上乘トシ、好シ又戰鬥ヲ事トスルモ戰略ハ其戰鬥地点、即チ戰場ニ於テ可成的我兵力ヲ敵ニ比較シテ優勢ナラシムルカ或ハ彼レヲシテ劣勢ナラシメ以テ容易ク敵ヲ壓倒スルヲ期シ、決シテ力戰苦鬥シテ得難キノ勝利ヲ強テ得ントスルヲ努メザルナリ。此ノ敵ニ對シ我兵力ヲ優勢ナラシメ我ニ對シ敵ノ兵力ヲ劣勢ナラシメントスル程度ニハ固ヨリ際限アルコトナク、彼ノ二ニ對スル我ノ三ヨリハ彼ノ二ニ對スル我ノ四トナルヲ可トシ、更ニ四ヨリ五、六、七、八ト我兵力ノ敵ニ比シテ多々益々大ナランコトヲ期セリ。而シテ其ノ極度ハ彼ヲ零トスレバ我ハ一ノ兵力ニテモ能ク敵ニ對シ無限大ノ優勢トナルニ販着ス。我ガ兵力ヲ無

限大ニスルカ敵ノ抵抗力ヲ皆無ナラシムレバ戰鬥ハ遂ニ成立スル能ハザルガ故ニ、全ジク戰略ノ要旨ハ「戦ハズシテ敵ヲ屈スル」ノ一原則ニ皈一セザルヲ得ザルナリ。

(戰略的手段トシテ戰鬥ノ価値) 斯ク推究シ来レバ、戰略的手段トシテ戰鬥ノ価値ハ真ニ僅少ナルガ如ク、寧口封鎖、牽制、佯動、威嚇等ノ如キ他ノ手段ニテ敵ヲ屈スルニ如カザルガ如シ。然リ如何ナル作戰ニ於テモ戰鬥ハ出来得ル丈ケ避ケザル可ラズ。好シ全ク之ヲ避クルコト能ハズトスルモ、尚ホ我兵力ヲ敵ニ比シテ優勢ニ保チ、以テ其戰鬥ヲ可成丈ケ容易ナラシメザル可ラズ。是レ實ニ兵理ニ原ケル戰略ノ原則ニシテ、動カス可カラザルモノナリ。然リト雖モ、古来ノ戰例ニ徴スルモ全ク戰鬥ナクシテ作戰目的ヲ達シタル實例ハ真ニ稀有ニシテ、多クノ場合ニ於テ或ル程度迄戰鬥ナル破壊手段ニ依ラザレバ作戰目的ヲ達スル能ハザルヲ常トセリ。前ニ引例シタル日清戰爭中ノ山東役ニ於テモ、水雷艇ノ夜襲又ハ砲台攻撃ノ如キ戰鬥動作ガ此ノ作戰ノ成功ヲ助ケタルコト少カラズ。又遼東役ニ於キテモ、旅順ノ戰鬥ガ作戰目的ヲ達スル為メニ直接ニ與テ力アルヲ認めザルヲ得ズ。敵ヲ屈スル手段トシテ戰鬥ハ直接且ツ單純ナルノミナラズ、成功ノ迅速ナルハ到底他ノ手段ヲ以テスルモ及バザル處ニシテ、打撃ヲ加ヘラレタル敵ハ其兵力ヲ減殺サルノミナラズ、士氣ハ挫折シ編制ハ破壊セラレテ立ドコロニ其抵抗力ヲ失ヒ、比較的ニ交戦ノ時日ヲ短クシテ作戰目的ヲ達スル利益アルナリ。戰鬥以外ノ他ノ手段ヲ以テスルトキハ常ニ交戦時日ヲ延長セシメ、勇敢ナル敵ハ往々総ユル困難ヲ忍ンデ

斃ルル迄抵抗ヲ持續スルコトアリ。前例ノ山東役ニ於テモ水雷艇隊ノ襲撃ヲ以テ敵ノ一部ヲ轟沈シタル等ガ大ニ敵ノ降伏ヲ速カナラシメタルハ疑ナク、又旅順ニ於テモ艦隊ハ単ニ海上ヨリ封鎖シ、陸軍モ唯ダ陸上背面一帯ヲ包圍シテ持久ノ策ヲ取リタリトスレバ、敵モ長時日ノ後ニハ遂ニ糧竭キ氣屈シテ降伏シタルナルベシト雖モ、彼ノ旅順口ノ戰鬥ヲ以テ一日ニ之ヲ陥落セシムル如キ迅速ノ結果ヲ見ル能ハザルヤ必セリ。斯クノ如ク、戰鬥ヲ避ケタル戰略ノ成功ガ比較的長時日ヲ要スルコトハ古今ノ戦例ノ實証スル所又理ノ當ニ然ラザル可ラザル處ニシテ、交戦時日ノ延長ハ率テ諸種ノ患害ヲ発生シ、内部ヨリハ天災、疾疫、軍需欠乏等ノ如キ原因ヨリ漸次ニ我兵力ヲ減少シ、又外部ヨリハ敵ニ援軍ノ増加、或ハ他方面ニ於ケル我が作戦ノ不利ガ當該方面ノ作戦ニ影響シテ漸次ニ戦勢モ変化シテ終ニハ我ニ不利ナルニ至ルコトガ往々之レアルモノナリ。故ニ戰略ノ原則トシテハ可成丈ケ戰鬥ヲ避クルヲ可トシ、戰鬥ニ依ルハ拙劣ト認メラレドモ、實際ニ臨ンデハ拙劣ナレドモ戰鬥ヲ以テ速ニ作戦ヲ終局セシムルコトガ却テ作戦目的ヲ達スル徑捷ノ手段トナルナリ。固ヨリ交戦時日ヲ延長セシムルコトハ必ズシモ悪シキニアラズト雖モ、多クノ場合ニ於テ悪結果ヲ呈スルヲ常トス。故ニ古ノ兵家モ、一方ニ於テハ「戦ハズシテ敵ヲ屈スルヲ善ノ善ナルモノ」ト教ヘ、又他方ニ於テハ「兵ハ拙速ヲ聞ク未ダ巧ノ久シキヲ觀ザルナリ」ト戒メ居レリ。即チ拙ナリトモ速カナルヲ可トシ、巧ミナルモ久キニ亘リテハ不可トシ、戰鬥ニ依ルハ拙劣ナレドモ速ニ作戦ノ目的ヲ達スルヲ以テ結局善ナルモノトナサザル可ラザルニ至ル。

斯ク多クノ場合ニ於テ戰鬥ニ依リ拙速ニ作戰目的ヲ達スルノ必要アリトスレバ、戰略實施上ニ於テ戰鬥ヲ避ケント欲スルモ避ク可カラザルコト多ク、為メニ戰略ニ對スル戰鬥ノ關係ハ頗ル密接トナリ、其戰鬥ノ成敗ガ直接又ハ間接ニ其作戰ノ成敗トナルガ故ニ常ニ最モ之ヲ重要視セザルベカラザルナリ。而シテ其戰鬥ハ戰術ヲ以テ戰ハルモノニテ、已ニ戰略ガ其戰鬥ヲ為サシメタル以上ハ其衝突地点、即チ戰場ニ於ケル勝敗ノ決ハ一ツニ戰術ノ巧拙ニ依リ、最早戰略ノ與ル所ニアラズ。故ニ戰術ノ巧拙其作戰ノ第一要件トナリ、此ノ如キ時若シ戰略拙劣ニシテ我ガ寡ヲ以テ敵ノ衆ニ對セシムルガ如キコトアルモ、其場合ニ於ケル戰術ガ巧妙ナルトキハ能ク我ガ寡ヲ以テ敵ノ衆ヲ破リ、戰略ノ短所ヲ補フト同時ニ作戰ノ目的ヲ達シ得ラルモノナリ。去レバ戰士トシテ戰術ノ講究練磨ハ戰略ヨリモ緊要ニシテ、古來兵術ノ講究ニ於テ戰術ガ第一位ニ置カルルモノ又其故ナキニアラザルナリ。

之ヲ要スルニ戰鬥ハ戰略實施ノ一手段ニ過ギズシテ、戰略ハ必ズシモ戰鬥ヲ為サシメズ寧ロ可成丈ケ戰鬥ヲ避ケシムルモノナルガ故ニ原則トシテハ戰略上必要アルニアラザレバ濫リニ戰鬥スベキモノニアラズト雖モ、多クノ場合ニ於テ戰鬥ニ依ルノ外迅速ニ作戰目的ヲ達スルヲ得ザルヲ以テ之ヲ避ケント欲スルモ避ク可ラザルヲ常トシ、單ニ原則ノミニ拘泥スベキニアラズト云フニ外ナラザルナリ。

(戦略上戰鬥ノ起ルベキ場合) 前段述べ来リタル戦略ニ對スル戰鬥ノ關係ハ凡テ對抗軍ノ一方ノミニ就キテ之ヲ主觀的ニ立論シタルモノニテ、未ダ之ヲ以テ直ニ戰鬥其物ガ成立スルモノト即断スベキニアラズ。何トナレバ戰爭ト戰鬥トヲ問ハズ、凡テ兵戰ナルモノハ男女ガ夫婦ノ契約ヲナスガ如ク、相對的ニ成立スルモノニテ、對抗軍双方ノ意志ガ相一致セザルトキハ、其處ニ戰鬥ノ起ルベキモノニアラズ。例ヘバ茲ニ我優勢ノ一軍ガ敵ノ劣勢ノ一軍ニ相會シタリトスルモ、敵ハ其戦略上戰鬥ヲ為スヲ好マズシテ戰鬥ヲ避クルニ努ムルトキハ、假令我ニ挑戰ノ意アリトスルモ合戦ハ成立セザルナリ。此ノ如キ場合ニ於テ敵モ均整ノ兵力ヲ有シテ我ト決戦セントスルカ或ハ敵ハ避戦セントスルモ、我軍ガ之ニ追窮シテ戦ハザルノ已ムヲ得ザルニ至ラシムレバ其處ニ初メテ戰鬥ノ成立ヲ見ルヲ得ルナリ。而シテ戦略ノ原則トシテ我劣勢ノ兵力ヲ以テ優勢ノ敵ト戰鬥スベキニアラザレバ劣勢ノモノハ常ニ戦ヲ避クルヲ事トシ、從テ戰鬥ノ成立スル場合ハ比較的僅少ナリト言ハザル可ラズ。此故ニ戦争若クハ戦役ニ於テ戰鬥ノ起ルハ左記ノ場合ノ外アラザルモノナリ。

一、對抗兩軍ノ戰鬥力均勢ナルトキ

二、對抗兩軍ノ双方若クハ一方ガ敵ノ戰鬥力ヲ誤算シ各其敵ニ對シ優勢又ハ均勢ナリト誤信シタルトキ

三、對抗軍ノ一方ガ優勢優速ニシテ劣勢劣速ナル敵ヲ窮迫シテ戰鬥スルノ已ムヲ得ザルニ至ラシメタルトキ

四、對抗軍ノ一方ガ劣勢ナルモ其巧妙ナル戦術ニ依リ優勢ノ敵ヲ屈シ得ルト自信シタルトキ

苟モ戰鬥ヲナス以上ハ對抗軍ノ双方共ニ勝利ヲ期シテ敗戦ヲ望マザルガ故ニ右四ツノ場合ノ外戰鬥ノ起ルベキモノニアラズ。而シテ前記ノ如キ場合ハ比較的ニ僅少ナルモノナレバ、戰鬥ノ起ルモ亦僅少ナリト断定スルノ外アラザルナリ。之ヲ實例ニ徴センニ、日清戦争ニ於テ我日軍ノ艦隊ハ終始敵ヲ索メテ之レト會戦スルニ努メタルモ、敵常ニ避戦ノ戰略ヲ執リシヲ以テ容易ニ會戦スルコト能ハザリシガ、漸ク開戦後約三ヶ月ヲ経テ清国艦隊ガ其陸軍ヲ護衛シテ鴨綠江付近迄出テ来タル時ニ我艦隊ガ之ヲ黄海ノ一遇ニ壓迫シテ戦フノ已ムヲ得ザルニ至ラシメ、茲ニ初テ彼ノ黄海ノ海戦ヲ現出シタルモノナリ。此時若シ清国艦隊ノ速力、我艦隊ニ優リテ彼戦ヲ避ケテ旅順又ハ大連灣等ニ避退シタラシニハ此戰鬥ハ起ラザリシナルベシ。其他トラファルガーノ海戦ノ如キモ其起リタル後ヨリ之ヲ觀察スレバ、真ニ容易ク偶然ニ起リタルカノ如クナルモ、其此ニ至ル迄ノ経路ハ較々複雑ニシテ、英将子ルソング不屈不撓ノ銳氣ヲ以テ終始敵ヲ索メ、大洋ヲ横リテ西印度ニ航シ、敵ヲ見ズシテ空シク欧海ニ環航セルガ如キ長日月ニ亘レル慘憺タル戰略的行動ノ後ニ起リタルモノニテ、敵避戦ヲ事トスルトキハ戰鬥ノ容易ニ成立スベキモノニアラザルコトヲ事實證明セリ。而カモ彼ノトラファルガーニ於テ幸ニモ子ルソンノ率フル英艦隊ガ敵ニ對シ風上ヲ占メタルタメ、遂ニ敵ヲ追窮シテ彼ノ有名ナル海戦ヲトラファルガー岬前ニ現出セシムルヲ得タルモ、若シ當時對抗両軍風上風下ノ位置相轉倒シ

タランニハ、避戦戦略ヲ執レルウ井レニユーブノ聯合艦隊ハ其最近根拠地タルカチスニ
 避退シテ子ルソソシテ彼ノ功名ヲナサシメザリシタルベシ。

前述ノ如ク實際ニ於テモ又理論ニ於テモ、戰鬥ノ容易ニ起ルベキモノニアラザルハ明白ナリトス。然ルニ兵術思想ニ乏シキ將校ハ戰爭ト聞クト同時ニ直チニ戰鬥ヲ聯想シテ、我ニ戰フ決心アレバ容易ク敵ト會シテ砲煙彈雨ノ裡ニ相見ルヲ得ルカノ如ク思惟スト雖モ、之レ未ダ見識ノ足ラザルヨリ生ズル妄想ニテ、戰鬥ハ斯ク容易ニ為シ得ラルルモノニアラザルナリ。

本節ハ複雑ナル戰略ト戰鬥ノ關係ヲ簡短ニ此一小節ニ述ベ尽サントシタルヲ以テ、前後混雜シテ或ハ解シ難キ所アラン。之ヲ要スルニ、戰略ノ要旨ハ戰ハズシテ敵ヲ屈セントシ、可成丈ケ戰鬥ヲ避ケテ作戰目的ヲ達セントスルニ拘ラズ、兵術ハ拙速ヲ貴ビ、或ル程度迄戰鬥ニ依ラザルベカラズ。又戰略上戰鬥ニ依ラントスルモ、對抗軍双方ノ戰略如何ニ依リ必ズ戰鬥ノ成立スベキニアラズシテ、戰鬥ハ容易ニ起リ得ベキニアラズト云フニ皈着ス。

第二節 戰鬥ノ目的及種別

(戰鬥ノ戰略上ノ目的) 戰鬥ノ目的及種別ニ戰略上ノモノト戰術上ノモノト二種アリ。今先ヅ其戰略上ノ目的及種別ニ就キ説明セントス。

已ニ第一節ニ述ベタル如ク、戰略ノ要旨トシテ戰鬥ハ必ズシモ為スベキニアラズシテ、寧ロ之ヲ避クベキモノナリ。然レドモ多クノ場合ニ於テ之ヲ避クルトキハ拙速ノ要旨ニ悖ルヲ以テ遂ニ之ヲ為サザル可ラザルニ至ルモノナリ。而シテ其戰鬥ヲ為スベキカ又ハ為スベカラザルカノ利害得失ハ戰略上ノ問題ニ屬シ、茲ニ戰術ノ範圍内ニ於テ論スベキノ限リニアラザルモ、既ニ戰略上一ツノ戰鬥ヲ為スノ必要アリトスレバ、其戰鬥ニハ必ズ何ノ為メニ其戰鬥ヲナスカノ目的ナカル可ラズ。例ヘバ其戰鬥ハ敵ノ主力ヲ擊滅センガ為メニシ、或ハ多少ニ拘ラズ敵ノ兵力ヲ減殺センガ為メニシ、或ハ敵ノ行動ヲ渋滞セシメンガ為メニシ、或ハ敵ノ要地若クハ物資ヲ略取センガ為メニシ、或ハ又守勢ノ作戰ナレバ敵ノ陸軍上陸ヲ妨ゲンガ為メニシ、又ハ我要地ヲ敵ニ奪ハレザル為メニスルガ如ク、凡テ作戰ノ攻勢ト守勢トニ拘ラズ、戰鬥ヲ為セバ必ズ之ヲ為ス所以ノ目的アルベシ。之ヲ稱シテ戰鬥ノ戰略上ノ目的ト謂フナリ。

此戰略上ノ目的ハ常ニ必ズシモ作戰目的ト一致スルモノニアラズ。作戰目的ハ其作戰

ノ終局ノ目的ニシテ、其作戰中ニ行フ處ノ各戰鬥ハ固ヨリ直接若ハ間接ニ其作戰目的ヲ達スル為メニスルモノナリト雖モ、此等ノ各戰鬥ニハ各其局地ニ於テ分岐セル戰略上ノ目的ヲ以テ各地ニ戰ハルモノナリ。例ヘバ日清戰爭ニ於テ清軍ガ其敵ニ對シ旅順ノ要地ヲ奪ハレザルヲ作戰目的トシテ敵ノ陸軍ガ花園口ニ上陸シタルヲ探知シ、之ヲ防遏セシメ、敵ニ對シ旅順ノ要地ヲ守ルコトハ此守勢作戰ノ作戰目的ニシテ、又花園口ヲ襲撃セル水雷艇隊ハ敵ノ上陸ヲ防遏スルト謂フ戰略上ノ目的ヲ以テ此戰鬥ヲ為セルモノナリ。固ヨリ此戰略上ノ目的ハ間接ニ作戰目的ヲ達スルヲ支助スルモノナレドモ、全ク之ト一致セルモノニアラズ。然ルニ敵ハ既ニ旅順ノ附近ニ近接シ来リ、其海陸聯合ノ攻撃ニ對シテ防戦スル場合ニハ、其戰鬥ノ戰略上ノ目的ハ旅順ノ要地ヲ守ルト云フ作戰目的ト一致スルニ至ルベシ。更ニ日軍ノ側ヨリ此戰役ヲ觀察シ、攻勢作戰ニ於ケル其作戰目的ヲ如何ト問ヘバ、旅順ノ要地ヲ占略スルヲ作戰目的トシ、花園口ニ陸軍ノ上陸ヲ援護セル艦隊ガ敵ノ水雷艇隊ノ来襲ヲ撃退シタリトスレバ、其戰鬥ニ於ケル戰略上ノ目的ハ陸軍ノ上陸ヲ援護スルニアリ。又其艦隊ガ戦フテ大連灣ヲ攻略シタリトスレバ、其戰鬥ハ敵ノ要地タル旅順ヲ占略スルノ作戰目的ニ對シ其ノ一脚地トスベキ大連ノ要地ヲ先ヅ占領セントスル戰略上ノ目的ヲ以テ戦ハレタモノニテ、何レモ其局地ニ於ケル特別ノ戰略上ノ目的ヲ有シ、未ダ作戰目的トハ一致セザルモノナリ。然ルニ旅順ニ於ケル海陸聯合攻撃ノ戰鬥ハ終局ノ目的タル旅順占略ト一致セルガ故ニ此戰鬥ノ戰略上ノ目的ハ作戰目的ト一致セルモノナリ。

(戰鬥ノ戰略上ノ種別) 斯ノ如ク一作戰ニ於ケル各戰鬥ノ各別ニ戰略上ノ目的ヲ有シ、此目的ハ取りモ直サズ其戰鬥部隊ノ有スル任務ヲ形成スルモノナリ。而シテ此等戰略上ノ目的ガ作戰目的ト一致スルト否トニ準ジテ戰鬥ヲ左ノ三種ニ種別ス。

一、本戦 二、支戦 三、不期戦

第一、本戦トハ其戰鬥ノ戰略上ノ目的ガ作戰ノ目的ト一致セルモノ、即チ直接ニ作戰目的ヲ達セントスル戰鬥ヲ謂フ。例ヘバ黃海海戦、旅順ノ戰鬥等ノ如シ。

第二、支戦トハ其戰鬥ノ戰略上ノ目的ガ作戰目的ト一致セザルモノ、即チ間接ニ作戰目的ヲ達スルヲ支助スル戰鬥ヲ謂フ。例ヘバ豊島海戦、大連灣ノ戰鬥等ノ如シ。

第三、不期戦トハ戰略上ノ目的ヲ有セザル戰鬥ヲ謂フ。例ヘバ豊島ノ海戦ハ清軍ニ取ツテハ不期戦ト称スルヲ適當トス。

右戰鬥ノ各種別ハ何レモ對抗軍ノ一方ヨリ見タル主觀的ノ種別ニシテ、必ズシモ對抗軍双方ニ通ジタルモノニアラズ。故ニ或ハ一方ハ本戦ト認ムルモ、他方ハ之ヲ支戦又ハ不期戦トスル實例ナキニアラズ。又支戦若クハ不期戦等ニ於テ意外ニ作戰目的ヲ達スルコトアリテ、敵ノ所在不明ナル場合等ニハ往々此ノ如キコトアリ。例ヘバ敵ノ主力ヲ撃滅セントスル作戰目的ヲ持セル艦隊ノ一部ガ敵ノ一小部隊ノ基地ニ伏在セルノ報ニ接シ之ヲ撃破セントシテ其地ニ至ルノ途上意外ニモ敵ノ主力ニ遭遇シテ力戦シ、遂ニ之ヲ撃破シ期セズシテ作戰目的ヲ達スルコトアリ。黃海海戦ノ如キモ後日ヨリ見レバ之ヲ本戦

ト認ムト雖モ、我艦隊ガ敵ノ運送船搜索等ノ如キ支戦ノ目的ヲ持シテ海洋島付近ヨリ鴨緑江ニ向針シ、凶ラズ敵ノ主力ト遭遇シテ會戦スルニ至リタルモノトスレバ、又之ヲ不期戦ト称スルモ可ナリ。但シ戦術上ニテ本戦若クハ支戦ト謂フハ是ヨリ為サントスル戦門ノ戦略上ノ目的ニ準ジテ種別スルニハアラザルナリ。

元来戦門ナルモノハ其本戦ト支戦ト拘ラズ其戦略上ノ目的ヲ達センガ為メニ行フ處ノ一種ノ手段タルハ前述ベタル如クニシテ、凡テ戦門スルモノハ此戦略上ノ目的、即チ何故ニ此戦門ヲ為スカノ理由ヲ了解シテ之ニ従事セザル可ラズ。即チ此目的ヲ達スルト否トガ直接若クハ間接ニ全局ノ作戦目的ノ成否ニ関係スルモノナレバ、唯ダ目的モナク無謀ニ戦門スルモ、全局ノ作戦ニ對シ何等ノ利益モアラザルナリ。故ニ戦門ハ必ず其戦略上ノ目的ヲ以テ戦フヲ要シ、假令不期戦等ニ於テ予メ案面サレタル戦略上ノ目的ヲ持セザルモ、其場合ニ於ケル全局ノ戦勢ヨリ推シテ即時ニ戦略上ノ目的ヲ定メ對戦セザル可ラズ。而シテ多クノ場合ニ於テ其局地ニ於テ敵ヲ屈スルコトハ戦略上ノ目的ヲ達スル所以ニシテ、特ニ本戦ニ於テ然リトス。然レドモ支戦ニ於テハ敵ニ勝ツト否トハ必ずシモ戦略上ノ目的ヲ達スルト否トニ関係セズ。往々敗ルルモ戦略上ノ目的ヲ達スルコトアリ。例ヘバ茲ニ一支部アリテ、其主隊ハ遠ク離レ敵ノ主力ヲ洋中ニ搜索シテ之ヲ撃滅セントスルニ對シ、此支部ハ其付近ノ一港ニ伏在セル敵ノ一部ヲ監視シテ外洋ヨリ来ル敵ノ主力ニ合同セシメザルノ任務ヲ有スル場合ニ於テ、若シ港内ノ敵逸出シ来リ其兵力意外ニ優勢ニシテ、或ル時間之ト交戦シテ遂ニ敗レタリトセンニ、其支部ハ敗レタリトモ或ル

時間敵ノ行動ヲ遲滞セシメタルガ為メニ我主力ヲシテ外洋ヨリ来ル敵ノ主力ヲ搜索シテ撃滅スルヲ得セシメタリトスレバ、其支隊ノ任務、即チ戰略上ノ目的ハ達セラレタルモノナリ。故ニ支戦又ハ不期戦等ニ於テハ時ノ戦勢ニ應ジテ假令敗戦予期スルモ戦ハザル可ラザルコトアリテ、戰鬥ニ従事スルモノハ其戰鬥ノ戰略上ノ目的ヲ服膺シテ戦フコト最モ必要ナリトス。

(戰鬥ノ戰術上ノ目的)

戰鬥ニハ戰略上ノ目的ノ外ニ戰術上ノ目的アリ。前者ハ即

チ何ノ為メニ此戰鬥ヲ決行スルカノ目的ナルモ、後者ハ如何ニシテ眼前ノ敵ト戦フベキカノ目的ナリ。此戰術上ノ目的ニ就テハ古今ノ兵家ノ説ク處異同アリテ、泰西ノ兵家ハ「戰鬥ノ戰術上ノ目的ハ我ニ最少ノ損害ヲ以テ敵ニ最大ノ損害ヲ與フルニアリ」ト云ヒ、又ハ「敵ノ兵力ヲ滅殺シ為シ得レバ之レヲ殲滅スルニアリ」ト説ク者多シ。然ルニ和漢ノ古兵家ハ戰鬥ノ戰術上ノ目的モ戦争、戦役等ノ目的ト等シク単ニ「敵ヲ屈スルニアリ」ト説ケリ。右ノ両説何レヲ是トスルモ、我々戦士ガ實戦ヲ學ブニ大ナルノ差別ナキガ如シト雖モ、根本ノ主義異ナレバ自然ニ戰鬥ノ方法モ異ナルガ故ニ、聊カ理論ニ傾クノ嫌アレドモ簡單ニ此等ノ諸説ニ對スル私見ヲ付述セントス。

右ノ両説ヲ比較スルニ、泰西兵家ノ諸説ハ敵ニ最大ノ損害ヲ與へ、或ハ為シ得レバ之ヲ殲滅セントスルガ如キ全ク其敵ヲ殺シテ無キ者ニセントスル殺敵主義ニシテ、敵ヲ殺傷スルハ此主義ノ目的トスル處ナリ。又和漢ノ兵家ノ説ハ敵ノ意志ヲ屈シテ我ニ服従

セシメントスル。敵主義ニシテ、敵ヲ殺傷スルコトアルモ、ソハ唯ダ敵ヲ屈スル手段トシテ用ユルモノナリ。即チ前者ハ殺敵ヲ目的トシ、後者ハ殺敵ヲ手段トセバ今マ単純ナル一例ヲ以テ之ニ對比センニ、茲ニ相格鬥スル二兵アリト假定セヨ。殺敵主義ニテハ飽ク迄モ對手ノ生命ヲ断ツヲ目的トシ、之レガタメ敵ノ致命部ヲ斬リ終ニ咽喉ヲ衝カントシ、敵モ亦同一ノ意志ヲ以テ之ニ對抗スルガ故ニ其格鬥慘烈ニシテ、敵ヲ倒シ得ルモ我モ亦大傷シテ起ツ能ハザルノ被害ニ苦マザルヲ得ズ。何トナレバ人ヲ傷クルモノハ必ず又己レモ傷ツクベキモノナレバナリ。之ニ反シ屈敵主義ニテハ為シ得ル限り敵ヲ殺傷スルヲ避ケ、単ニ之ヲ屈伏セシムルノ手段トシテ、或ハ之ヲ疲労セシメ、或ハ其武器ヲ奪ヒ、或ハ其手足ヲ傷ケ、以テ其抵抗力ヲ減殺シ、遂ニ我ニ屈服スルノ已ムヲ得ザルニ至ラシムルヲ目的トスルヲ以テ、敵ガ最後迄抵抗スルニアラザレバ其生命ヲ断ツコトナシ。即チ屈敵主義ノ最後ノ手段ヲ盡シタル結果ハ殺敵主義ノ目的ヲ達シタルモノト一致ス。故ニ此主義ニテハ常ニ多クノ時間ヲ要スルヲ免レザルナリ。

本来戰鬥ナルモノハ已ニ殺傷ヲ意味スルモノナリト雖モ、殺敵主義ノ如ク我損害ヲ犠牲トシテ飽ク迄モ其敵人ヲ殺サントスルノ必要無ク、為シ得レバ撃沈センヨリ捕獲シテ我有トナスニ如カザルナリ。故ニ殺敵ハ決シテ戰鬥ノ本旨ニアラザルベク、戰鬥ノ戰術上ノ目的ハ和漢兵家ノ説ク如ク「敵ヲ屈スルニアリ」トスルヲ適當ナリト認ム。

然レドモ未ダ完全ナル戰鬥力ヲ有スル敵ガ初ヨリ直チニ屈伏スベキニアラザレバ、其目的ヲ達スルノ手段トシテ或程度迄殺敵ヲ行ハザル可ラザルハ論ヲ俟タズ。加之拙速ヲ貴

ブ兵術ニ於テハ漫リニ主義ニ拘泥シテ屈敵ニ努メ徒ニ時間ヲ消費ス可ラザルヲ以テ、迅速ニ敵ヲ屈セントセバ勢ヒ激烈ナル殺敵手段ヲ施サザル可ラザルナリ。

前記両説ノ外戰鬥ノ戰術上ノ目的ニ就キテ諸兵家ノ説ニ異同ナキニアラザルモ、歸着スル處ハ大抵此ノ両説ノ一ツニ過ギズ。就中戰鬥ノ戰術上ノ目的ハ「敵ニ勝ツニアリ」ト説ケルモノアリ。一見其要ヲ得タルガ如シト雖モ、本来勝ツト云フコトガ容易ニ名状シ難キ語ナルヲ以テ之ヲ適當ノ界説ト認メ難シ。尚ホ勝敗ニ関スルコトハ之ヲ次節ニ詳論セントス。

斯ク戰鬥ノ戰術上ノ目的ハ単一ニ敵ヲ屈スルニアリトスレバ、此敵ヲ屈スル程度ニハ等差ナカラザル可ラズ。即チ絶對的ニ敵ヲ屈シ得ルコトモアルベク、又或程度迄比較的ニ敵ヲ屈スル場合モアルベシ。古来戰例ノ示ス處ニ依レバ、絶對的ニ敵ヲ屈シ得タルハ殆ド稀レニシテ、多クハ或程度迄敵ヲ屈シ得タルニ止リ、又屈敵ノ目的ヲ達スル能ハザルノミナラズ却テ敵ヨリ屈セラルルコトアリ。両兩相對抗スル兵軍ハ各其敵ヲ屈スルヲ目的トスルモ、其敗者ハ常ニ敵ヨリ屈セラレタルモノナリ。而シテ其屈敵ノ程度ハ其戰鬥ノ戰略上ノ目的ヲ達スルト否トニ影響スルガ故ニ、前段ニ述ベタル如ク戰略上ノ目的ヲ服膺シテ戰鬥スルコト固ヨリ必要ナレドモ、已ニ敵ト對スルニ至レバ先ヅ戰術上ノ目的ヲ達スルヲ直接ノ要件ナリトス。但シ戰術上ノ目的ヲ達スルト全時ニ常ニ必ズ戰略上ノ目的モ達シ得ラルルモノニアラズ。例ヘバ茲ニ敵ノ陸軍揚陸ヲ阻止スベキ戰略上ノ目的ヲ持シテ一艦隊ガ敵ノ上陸地点ヲ急襲シ敵ノ揚陸掩護艦隊ヲ撃破シ或程度迄戰術上ノ

目的ヲ達シ得タリトスルモ、尚ホ陸軍ノ揚陸ヲ阻止スルコト能ハザル場合ノ如キ是ナリ。彼ノナイルノ海戦ノ如キモ戦略上ノ目的ハナポレオンノ埃及攻略ヲ阻止スルニアリテ、實ニ比類少キ大勝ヲ以テ殆ンド全然敵ヲ屈シ得タルモノナレドモ、尚ホナポレオンハ依然埃及ノ攻略ヲ遂行スルコトヲ得、其当時ニ於テハ未ダ充分ニ戦略上ノ目的ヲ達スル能ハザリシ。然ルニトラファアルガーノ海戦ノ戰鬥ノ戦略上ノ目的モ戦術上ノ目的モ両方共ニ達成サレタル好適例ナリ。

(戰鬥ノ戦術上ノ種別) 戰鬥ノ戦術上ノ目的ヲ達スルニ程度アルコト前述セルガ如シ。此敵ヲ屈スル程度ハ戦ツテ後ニ之ヲ知り得ルモノナレドモ、戰鬥ハ常ニ戦ハザル前ニ此屈敵ノ程度ヲ鑑定シテ開戦スベキモノナリ。若シ此程度ノ鑑定ニ過不足アラシカ、過グレバ我力及バズシテ却テ敵ニ屈セラレ、又不足ナレバ得ラルベキ勝利ヲモ亡失スルモノナリ。而シテ此ノ敵ヲ屈スル程度ノ鑑定ハ主トシテ彼我戰鬥力ノ優劣、時象、地形ノ利害、即チ當時ノ戦勢如何ノ考慮ヨリ来ルモノニシテ、當該對抗軍ノ意志ニヨリ或ハ全然敵ヲ撃滅又ハ捕獲セントシ、或ハ撃攘撃退ニ止メントシ、屈敵ノ程度ニ差等ヲ生ジ、徒ニ或ハ決戦トナリ、或ハ對持戦トナリ、又屈敵ノ算立タザレバ退却戦トナリ、退却スル敵ニ戦ヲ強フレバ追撃戦トナルベシ。即チ戰鬥ノ戦術上ノ目的ヲ達セントスル對抗軍ノ意志ノ程度ニ準ジテ戰鬥ハ左記ノ如ク種別セラルルモノナリ。

- 一、決戦
- 二、對持戦
- 三、退却戦

第一、決戦トハ積極的ニ戰鬥ノ戰術上ノ目的ヲ達セントスル戰鬥、即チ完全ニ敵ヲ屈セントスルモノヲ謂フ

第二、對峙戰トハ消極的ニ戰鬥ノ戰術上ノ目的ヲ達セントスル戰鬥、即チ充分ニ敵ヲ屈スル能ハザルモ我モ敵ニ屈サレザラントスル戰鬥ヲ謂フ

第三、追撃戰トハ我ヨリ避退セントスル敵ニ對シ積極的ニ戰鬥ノ戰術上ノ目的ヲ達セントスル戰鬥ヲ謂フ

第四、退却戰トハ敵ヲ避ケ消極的ニ戰鬥ノ戰術上ノ目的ヲ達セントスル戰鬥ヲ謂フ
如上戰鬥ノ種別モ亦對抗軍ノ一方ヨリ主觀的ニ分類シタルモノニシテ、凡テ戰鬥ノ如キ相對的ニ成立スルモノニテハ其一方ニ於テ決戦セントスルモ、他方ハ對峙戰ヲ以テ之レニ對抗スルコトナシトセズ。故ニ同一ノ戰鬥ニ於テ對抗軍ノ双方ノ見界ヲ異ニスル場合少カラズ。又一戰鬥ノ經過中戰鬥ノ變化ニ準ジテ戰況モ變化シ来リ、初メハ對抗軍ノ双方決戦ノ目的ヲ以テ合戦スルモ、其一方利アラザルトキハ已ムヲ得ズ退却戰ヲナシ、之ニ反シ他方ハ追撃戰ニ移リ、或ハ又對峙戰中戰機ノ發展ヲ見テ更ニ決戦ニ移ルノ如キコトアリテ、必ヅシモ一戰鬥ヲ通ジテ同一種ノ戰鬥ヲ終始スルモノニアラザルナリ。

第三節 戰鬥ノ勝敗及戰果

(勝敗ノ界説) 夫レ勝ト謂ヒ敗ト謂ヒ、吾人ハ常ニ凡百ノ争鬥ニ於ケル輸贏ノ結果ヲ言現ハスノ通語トシテ之ヲ用フト雖モ、抑モ勝トハ如何ナル現象ナルカ、又敗トハ勝ニ對シテ如何ナル差異アリヤト問ヘバ決シテ適確簡單ニ説明シ得ルモノニアラズ。彼ノ擊劍、柔術、相撲、或ハ囲碁、将棋ノ如キ、最モ單純ナル争鬥ニ於テスラ其ノ勝敗ノ判決ハ困難ナルモノニテ、為ニ何レモ勝敗ヲ判決スベキ人為的ノ審判規定ヲ設ケザルハナシ。例ヘバ相撲ニテハ土俵ノ外ニ出ヅルカ、手ヲ地ニ着クレバ敗トナリ、又将棋ニ於テハ先ヅ對手ノ王将ヲ殺スヲ勝トスルガ如キ、皆此ノ如キ協定規約ニ依リ勝者勝ヲ称シ、敗者敗ニ服スト雖モ、兵戰ニ至リテハ此ノ如キ單純ナル人為的審判ヲ以テ勝敗ヲ定メ得ベキニアラズ。固ヨリ古来ノ兵戰ニ於テ所謂勝敗ノ差隔顯著ニシテ對抗軍一方ノ損害過少ナルニ反シ、他方ハ多大ノ損害ヲ蒙リ又立ツ能ハザル等ノ場合ニハ其勝敗ノ數明確ナルモ、要地ヲ争フ戰鬥等ニ於テ、對抗軍双方ノ損害相匹儔スル場合等ニハ何レヲ輸トシ何レヲ贏トスベキカ判決ヲ下シ難キコト多ク、古今ノ戰例ニ於テモ對抗軍ノ双方共ニ自軍ノ戰勝ヲ主張セルモノ少シトセズ。欧米ノ諸兵家ハ此ノ戰鬥ノ勝敗ニ関シ種々ノ界説ヲ下シ、或ハ「戰鬥終ルノ後對抗軍ノ損害ヲ比較シ其少ナルモノヲ勝トシ大ナルモノヲ

敗トス」ト唱へ、或ハ「敵ヲ壓倒シテ戰場ヨリ退去セシメ自ラ戰場ノ主トナルモノハ勝者ニシテ、敵ノ兵整然トシテ自由ニ戰場ヲ退去スルモ亦其戰勝タルヲ失ハズ」ト説キ、或ハ又「勝利ニ戰略的勝利ト戰術的勝利ノ別アリ。前者ハ我作戰目的ヲ達成スルヲ謂ヒ、後者ハ戰場ニ敵ヲ壓倒シテ我ガ優勢ヲ示スヲ謂フ」ト註スルガ如キ、諸説何レモ一理ナキニアラズト雖モ未ダ之ヲ以テ凡百兵戰ノ勝敗ヲ判決スルノ通則トナス能ハザルガ如シ。戰史ヲ見ルニ、兵力上ノ損害ハ敵ニ比シ多大ナルモ敵ノ坵地ヲ占領シ得タリトテ戦ニ勝テリトスルモノアリ。又戰場ヨリ退却スルモ敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリトシテ自ラ勝テリトスル實例ハ古今海陸共ニ其ノ幾多ナルヲ知ラズ。今又假想ノ一例ヲ引カンニ、茲ニ四隻ヨリ成ル一艦隊アリテ其ノ戰略上ノ目的ハ敵ヲ一地ニ拘束スルニアリトシ、優勢ナル十二隻ノ敵艦隊ト交戦シ健闘奮戦シテ敵ノ四艦ヲ擊沈シタル後遂ニ衆寡敵セズ、我四艦モ悉ク大破シテ沈没シタリトセヨ。普通ノ戰史ハ大抵之ヲ後者ノ勝利トシテ後世ニ伝フルヲ常トス。然レドモ此戰鬥ニ於ケル所謂利ナルモノ何レニアリトセバ無論前者ニアリテ、今若シ更ニ前者ノ友軍タル十隻ノ艦隊此ノ戰鬥ノ終リニ来リ會シ、已ニ損傷セル敵ノ殘艦八隻ヲ擊滅シタリトセバ戰勝ノ畝スル處論ヲ俟タズシテ明カナリ。此ノ如キハ實際兵戰ニ於ケル勝敗ノ真相ニシテ、勝チタリトテ利アラザレバ勝利トスルニ足ラザルナリ。斯ク觀察シ来レバ實際ニ於テ複雑ナル兵戰ノ勝敗ヲ定ムル準據トスベキモノニアラズト雖モ、兵學講究上強テ界説ヲ定メ置カンニハ、前記シタル一兵家ノ説ニ做バ之ヲ戰略的勝利及戰術的勝利ニ區別シ左ノ如ク界説スルヲ便宜ナリトス。

一、戰鬥ノ戰○略○的○勝○利○トハ其戰○略○上○ノ○目○的○ヲ達スルヲ謂フ
 二、戰鬥ノ戰○術○的○勝○利○トハ其戰○術○上○ノ○目○的○ヲ達スルヲ謂フ

戰鬥ニ戰略及戰術上ノ目的アリテ、此等ノ目的ノ達スルニ程度ノアルコトハ已ニ前節ニ述ベタル如クニテ、其程度ノ判定又困難ナルモノナレバ、此界説モ未ダ完全ナルモノトハ言ヒ難シト雖モ、尚ホ前記諸兵家ノ説ニ比スレバ比較的適功ノ判決ヲ下スコトヲ得ベシト認ム。例ヘバ四隻ノ艦隊ト十二隻ノ艦隊ト戦フタル戦例ヲ此ノ界説ニ依リ判決スレバ、此ノ四隻ノ艦隊ハ敵ヲ拘束スベキ戦略上ノ目的ハ達シ得タルモノニテ戰略的勝利ハ此四艦ニ在リ。然レドモ十二隻ノ敵艦隊ノ優勢ヲ以テ遂ニ極度迄我ヲ壓屈シテ全滅ニ至ラシメタルヲ以テ有利ノ戦勝ニアラザルモ戰術的勝利ハ此十二隻ノ敵艦隊ニアリト謂フベキナリ。然ルニ此四艦ガ遂ニ敵ニ屈セズ、敵艦二隻ヲ撃沈シ未ダ我二艦ヲ全フセルトキ我友軍来リ會シ、全局ノ勝利ヲ得タリトセバ、是レ或程度迄敵ヲ屈シ得タルモノニテ戰術的勝利モ亦此四艦ニ歸スベシ。前記ノ界説未ダ完全ノモノニアラザルモ、本来戰鬥ノ勝敗ナルモノガ戦況ノ如何ニ依リ判決シ難キモノナレバ、強テ之ヲ明晰ナラシメントスルハ却テ兵戦ノ真相ニ遠カリテ、空理ニ陥ルノ弊アルヲ免レズ。故ニ吾々戦士ノ着眼スベキハ勝敗ノ空名ニアラズシテ、其任務ヲ遂行シテ可成の多大ノ戦○果○ヲ収ムルニアルコトヲ銘記セザル可ラズ。戦果ナキ戦勝ハ一ツモ勝者ヲ利スルコトナク、唯ダ無益ノ殺傷ニ過ギザルナリ。以下更ニ戦果ニ就キテ説明セントス。

(戦果ノ本質) 戦果トハ兵戦ノ後對抗軍ノ一方ガ其敵ニ對シテ獲得スル有形無形ノ結果ヲ謂フモノナリ。而シテ兵戦ノ種別ニ準ジテ戦果ノ範圍モ大小アリテ、戦争ノ戦果、戦役ノ戦果、又ハ戰鬥ノ戦果等ニ分別スルヲ要ス。本節ニ説明セントスルモノハ戦術ニ直接ノ關係アル戰鬥ノ戦果ナリトス。

戰鬥ノ戦果ハ概ネ左記ノ諸項ヲ含有ス。

(有形的戦果)

- 一、敵ノ避退ニ基ケル戦域ノ拡張并ニ戰略地点及交通線ノ占奪
- 二、殺傷捕獲等ニ基ケル敵軍兵力ノ減殺
- 三、破壊及鹵獲等ニ基ケル敵軍兵器兵資ノ損失
- 四、打撃ニ基ケル敵軍編制ノ崩乱

(無形的戦果)

- 五、我戰略上ノ目的ノ達成若クハ敵ノ戰略的企圖ノ打破ニ基ケル戰略的戦勢ノ变化及戰略的戦機ノ拡張
- 六、打撃ニ基ケル敵軍々紀ノ弛廢
- 七、屈敵ニ基ケル敵軍士氣ノ沮喪及我軍士氣ノ振肅

以上列記セル戦果ノ諸項ハ其戰鬥ノ攻勢ナルト守勢ナルト、又其本戦ナルト支戦ナルト、或ハ其戦況ガ決戦的ナルト對持戦的ナルト等ニヨリ其分量ニ大小アリト雖モ、概シテ如何ナル戰鬥ニ於テモ此等諸項ノ幾分ヲ含有セザルコトナク、戦勝ハ此等戦果ノ分量

ノ多大ナルニ従ヒ其光輝ヲ発揚シ価値ヲ大ニス。若シ戦果大ナラザルトキハ假令戦ニ勝ツノ名ヲ得ルトモ其實全局ノ作战ヲ利スルコト真ニ少ク、唯ダ敵ト殺傷シテ相共ニ彼我ノ兵力ヲ減少シ、徒ラニ人命ヲ損ジ物資ヲ亡ヒ而シテ戦勢ハ依然トシテ変スルコトナク、其結果彼我共ニ戦傷ニ疲弊シ又起テ戦フコト能ハズ、遂ニ第三者ノ位置ニ立テル傍觀敵國ヲ利スルニ至ル。特ニ此戦門ノ激烈ナルニ従ヒ益々然リトス。此ノ如キ戦果ノ少量ナル戦門ノ初メヨリ之ヲ為サザルヲ可トシ、敢テ之ヲ作為セル指揮官ノ罪ハ寧口敗戦ヨリモ大ナルコトアリ。茲ニ陸戦ノ一例ヲ挙ゲンニ、我戦国時代ニ當リ武田、上杉ノ両軍ガ信州川中島ニテ殆ンド戦果ナキ激戦ヲ交ユルコト数回ニ及ビ、其戦門ノ光彩ハ両軍戦術ノ巧妙ナルト戦門ノ激烈ナルニ依リ今尚ホ我が戦国史ヲ飾ルト雖モ、當時對抗両軍ハ戦果トシテ何等獲得セルモノナク前後数回ノ合戦ニ両軍ノ勇将猛卒戦没シタルモノ頗ル多ク、為メニ信玄モ謙信モ其一生ノ雄図ヲ天下ニ實行スルコト能ハズシテ終ニ織田信長ニ中原ノ鹿ヲ獲セシメタルガ如キ、當時両家對隣ノ事情已ムヲ得ザラシメシモノアリシト雖モ、抑モ亦両軍常ニ拮抗伯仲セル兵力ト兵術ヲ以テ戦果ヲ得ルノ望ミナキ戦門ヲ屢々シタル因果タラザルハナシ。其他古来海陸ノ戦例ニ於テ唯ダ勝戦トシテ戦史ニ伝フルノミニテ、其戦果ノ挙ラザルモノ甚ダ多シ。深ク戒メザル可ラズ。是故ニ戦士タルモノハ戦フテ敵ニ勝ツコトヨリハ、先ヅ戦フテ幾何ノ戦果ヲ収メ得ベキカニ留意スルヲ最要ナリトス。固ヨリ戦果ナルモノハ戦フテ後ノ結果ナレバ戦ハザル前ニ其得ラルベキ分量ヲ正確ニ予知スル能ハザルノミナラズ、時トシテハ計畫上ノ誤算又ハ實施上ノ齟齬等ニ依

リ却テ得ル處失フ處ヲ償ハザルコトアリ。或ハ又予期以外ニ多大ノ成果ヲ収ムルコトナ
 キニアラズト雖モ、大抵當初ノ計畫ニ於テ幾何ノ犠牲ヲ払ヘバ幾何ノ戦果ヲ收穫シ得ベ
 シトノ予算ヲ以テ其戰鬥ヲ開始セザルベカラズ。戦フテ後之ヲ知ルガ如キハ兵家ノ取ラ
 ザル處ニテ、孫子モ「勝○兵○ハ先ヅ勝テ而シテ後ニ戦○ヲ求メ、敗兵ハ先ヅ戦テ而シテ後ニ
 勝ヲ求ム」ト戒メ居レリ。而シテ戦果ハ宛カモ草木ガ春夏ニ生茂シテ花開キ其花散リテ
 後秋冬ニ果實ヲ結ブガ如ク戰鬥ニ於テモ大抵其前半期ニ戦果ヲ収メ難キモノニテ、多ク
 ハ後半期ノ終リニ多大ノ收穫アルモノナリ。此前半期ハ概シテ決戦ノ時期ニ属シ、宛カ
 モ春光爛漫タルガ如ク彼我相撃チテ戰鬥ノ光景最モ激烈ヲ極ムト雖モ此時期ニハ未ダ多
 量ノ戦果ヲ見ザルモ、勝敗漸ク決シ彼我戦ニ疲レ砲声次第ニ衰ヘ宛カモ花ノ散リタル後
 ノ如キ後半期ニ至リテ漸次ニ戦果ノ收穫ヲ見ルベシ。若シ此重要ナル時機ニ勝者戰鬥ニ
 倦ンデ戦果ヲ収ムルニ努メズ、戰鬥ヲ中止スルカ或ハ追撃ヲ猶予スル等ノコトアレバ全
 然無意味ニ戦ヒタルモノト謂フベク、唯ダ花ノ爛漫タルヲ見テ目ヲ喜バシタルノミニテ
 其美味ヲ食ハザルト一般ナリ。決戦ノ時期已ニ経過スレバ我モ損傷シテ疲労大ナリト雖
 モ、更ニ一層ノ勇ヲ鼓シテ猛烈ナル追撃戦ニ移リ敵ノ兵力ヲ減殺シ兵資ヲ打破シ尚ホ進
 ンデ要地ヲ略スル等時ノ情勢ニ應ジテ為シ得ル限り多大ノ戦果ヲ収メザル可ラズモノナ
 リ。

第四節 戰鬥ニ於ケル攻撃ノ正奇及虚實

(攻撃ノ正奇) 凡ソ兵戰ノ大小ヲ論ゼズ、敵ト戰フニ當リ敵ヲ攻撃スルノ方法ニ正法ト奇法ト二種アリ。正法トハ所謂正々堂々ノ姿勢ヲ執リ、我實力ヲ以テ敵ノ實力ニ加フルモノニシテ、之ヲ有形的方術ニ例フレバ我が正面ヲ敵ノ正面ニ對シ力争ヲ以テ敵ヲ攻撃セントスルガ如キハ正法ニ属シ、之ニ反シテ敵ノ側面ニ迂回シ其弱点ヲ横撃スルガ如キハ奇法ナリ。又之ヲ無形的心術ニ就テ例フレバ白昼我が行動ヲ隱蔽スルコトナク我兵力ヲ敵ニ示シ我ニ對スル戦備ヲ整ヘシメ、對等ノ情勢ヲ以テ交戦スルガ如キハ正法ニシテ、夜中敵ノ備ヘナキニ乗ジテ不意ニ之ヲ襲撃スルガ如キハ奇法ニ属ス。即チ正法トハ我實ヲ以テ敵ノ實ニ對シ正當ニ攻撃スルノ義ニシテ、奇法トハ詭道ヲ用ヒ我實ヲ以テ敵ノ虚ヲ攻撃スルノ意ナリ。近世ノ兵學上ニ於テ方術的正奇ノ攻撃法ヲ正撃及奇撃ト謂ヒ、心術的正奇ノ攻撃法ヲ正攻及奇襲ト謂フ。而シテ之ヲ應用スルニ當リテハ、方術ノ正奇ト心術ノ正奇トノ配合ニ依リ正攻ノ正撃、正攻ノ奇撃、奇襲ノ正撃及奇襲ノ奇撃ノ四種ニ変化ス。前記四種ノ攻撃法中最モ効力多キヲ奇襲ノ奇撃トシ戦士ノ常ニ取ラントスル處ナリ。

上記セルガ如ク其心術ト方術ニ論ナク、正法ハ我實力ヲ以テ敵ノ實力ニ對シ攻撃スル

モノナルヲ以テ我兵力ハ敵ヨリモ優勢ナラザル可ラズ。換言スレバ優者ニナラザレバ正法ヲ以テ攻撃スル能ハズ。之ニ反シ我寡ヲ以テ敵ノ衆ニ對抗センニハ固ヨリ実力ノ足ラザルモノアルガ故ニ、奇法ヲ以テ攻撃セザル可ラズ。即チ劣者ハ奇法ニ依ルニアラザレバ勝利ヲ獲ルコト難シ。是レ兵力ノ優勢ヨリ生ズル自然ノ理勢ニシテ、優者ハ主トシテ其法ヲ執ラントシ、劣者ノ常ニ奇法ニ依ラントスル所以ナリ。然レドモ優者ニ又必ズ常ニ正法ヲ執ルベキモノニアラズ。是レ正法ノミヲ以テ攻撃スルトキハ其戰鬥ハ単ニ力争ノミトナリ、假令戦ニ勝ツモ彼我相殺傷シテ多大ノ兵力ヲ損失シ、我損害セル犠牲ノ大ナルニ比シ得ル所ノ戦果ハ比較的僅少ナルヲ以テナリ。故ニ優者モ亦奇法ヲ併用セザル可ラズ。況ンヤ彼我殆ンド均勢ノ兵力ヲ以テ相戦フ場合ニ於テヤ。

本来兵術ハ詭道ニシテ奇法ヲ用フルハ戦術ノ依テ成立スル所以ナリ。例ヘバ艦隊戰鬥ニ於テ心術、方術共ニ正法ヲ執リ、對抗両軍一樣ニ相近接並航シ各正撃法ヲ以テ互ニ砲戦スルトキハ唯ダ単ニ砲術ノ力争ニ止リ彼我相殺傷スルニ過ギズシテ、砲術ニ練達セルカ砲力ノ大ナルモノ勝ヲ制シ、茲ニ寸毫モ戦術ノ効用トシテ見ルベキモノナシ。然ルニ對抗軍ノ一方ガ奇撃法ヲ執リ敵ノ先頭若クハ後尾ニ繞回シ其全線ノ砲火ヲ敵ノ一端ニ集中シ得ルガ如ク操縦スルニ至リテ初メテ戦術ノ効用ヲ實現スルモノニシテ、所謂丁字戦法ノ如キモ亦此奇撃法ノ適用ニ外ナラザルナリ。之ニ依リテ之ヲ見レバ、戦術ハ奇法ニ依リテ成立スルモノト謂ハザル可ラズ。然リ戦術ノ本旨ハ方術、心術共ニ奇法ヲ執ルニアリ。正法ハ優者ト雖モ好ンデ執ルベキモノニアラズ。然リト雖モ奇法ハ必ヅシモ終始

執り得ベキモノニアラズ。假令我ハ奇法ヲ以テ敵ノ虚点弱兵点ヲ攻撃セントスルモ、敵常ニ正法ヲ以テ我ニ對セバ遂ニ虚ノ乗ズベキナク弱点ノ生ズルナキヲ如何セン。抑モ兵戦ハ相對的ニ成立スルモノナレバ我ノ奇法ヲ執ラントスルト等シク敵モ亦奇法ヲ好ンデ執ルベク奇ト奇相對スレバ正ト正相對スルト一般ニテ已ニ其奇ナル所以ヲ失ス。是ニ於テカ戰術應用ニ関ル正奇併用ノ原則ヲ生ズ。此原則ハ古兵家ノ格言タル「凡ソ戦ハ者以・正ヲ合ヒ以・奇ヲ勝ツ」是レナリ。此言真ニ簡單ナリト雖モ、其意味ハ頗ル深長ナリ。蓋シ「正ヲ以テ合ヒ」トハ敵ガ正奇何レノ攻撃法ヲ以テ来ルモ我ハ常ニ正々實力ヲ以テ之ニ對シ敵ニ虚ヲ示スベカラズト云フヲ意味シ、又「奇ヲ以テ勝ツ」トハ戦機ヲ見テ敵ノ虚ニ乗ジ弱点ヲ衝キ勝ヲ制スベシト云フヲ意味スルモノナリ。又正法ハ人間萬事ノ大本ナルガ故ニ先ヅ正位ニ我ヲ置キテ敵ニ乗ズル能ハザラシメ、然ル後奇法ヲ敵ニ施シテ勝利ヲ制スベキモノナルガ故ニ第一ニ「正ヲ以テ合ヒ」ト説キ、第二ニ「奇ヲ以テ勝ツ」ト教ヘタルナルベシ。而シテ先ヅ敵ニ對センニハ已ニ前段ニ述べタル如ク優勢ノ兵力ヲ以テ敵ニ臨マザル可ラザル、故ニ先ヅ敵ニ對シ我ガ優勢ヲ保ツコトガ正法ヲ意味スルニ至ルナリ。即チ戰略ノ原則トシテ敵ニ對シ戰場ニ我ガ優勢ヲ占ムル如ク我ガ諸隊ヲ運用セシムルモノハ戰術上先ヅ正法ヲ執リ得ルノ實力ヲ有スルノ必要アルヲ以テナリ。固ヨリ我レ劣勢ナリト雖モ頻リニ奇法ヲ施シテ優勢ノ敵ニ勝ヲ得ザルニアラザルモ、敵モ亦戰術ニ熟達スルトキハ到底奇法ノミヲ用フル能ハザルナリ。今之ヲ最モ單純ナル相撲ニ例ヘンニ、相撲戰術ノ優者タル大関ノ資格ニハ先ヅ第一ニ充分ノ体力ヲ具備シ、如何ナ

ル對手ニ對スルモ正法ヲ執ル得ルノ力量ヲ有スルト同時ニ奇法即チ相撲ノ手ニモ熟達セザル可ラズ。彼ノ所謂手取り力士、即チ奇法ノミヲ以テ立ツ力士ハ假令一時全勝ヲ占メ大関タルヲ得ルモ永ク其位置ヲ保ツコト難シ。是レ正ヲ以テ合フコト能ハザルヲ以テナリ。又唯ダ体力ノミ發達シテ術ナキ力士ハ屢々敵ニ奇ヲ以テ破ラルルノミナラズ、力量ノミアル敵ニ對シテモ我ガ力ノ余裕少ク奇ヲ以テ勝ツコト能ハズ。故ニ兩者共ニ到底大関タルコト難シ。凡百兵戰ノ原則モ亦此理外ニ出ゾルコトナク、基本戰術ニ於ケル彼ノ所謂乙字戰法ノ如キモ方術上ニ於ケル正奇併用ノ戰法ニシテ、其ノ一隊ガ正位ニ立チテ敵ト正當ニ對戦セルトキ、他ノ一隊ガ奇位ニ出テ敵翼ヲ横撃スルヲ要旨トセルモノナリ。而シテ此戰法モ敵ニ對シ先ヅ優勢ヲ占メ正法ヲ執リ得ル兵力ヲ有セザレバ實施スルコト頗ル難シ。

之ヲ要スルニ戰術應用ノ要訣ハ己レノ欲セザル處人ニ施ス可シト云フニアリテ、敵ニハ常ニ正位ヲ以テ對シ奇法ヲ用フルコト能ハザラシメ、我ハ敵ニ奇法ヲ施シテ之ヲ破ルニ努メ終始敵ノ欲セザル處ニ出デザル可ラズ。然レドモ敵モ亦此要訣ニ従ヒ我ニ對抗スルトキハ双方互ニ乗ズベキノ虚無ク、終ニ勝敗ヲ決スル能ハザルニ至ル。故ニ常ニ能ク戰勢ノ變化ヲ觀察シ戰機ヲ先見シテ臨機應變或ハ正攻ヲ執リ或ハ奇襲ヲ試ミ或ハ正撃ニ出テ或ハ又奇襲ヲ施シ、正奇ノ應用ヲ千變萬化スルノ外ナシ。例ヘバ基本戰術ノ乙字戰法ヲ以テ敵ト戦フニ當リ一隊ガ正位ニ立テルトキ、彼我ノ運動ニ依リ戰勢變化シテ奇位ニ轉ズルコトアリ。又奇位ヲ占メテ敵ノ一翼ヲ猛撃シツツアル一隊ガ敵ノ正面變換ニ由

リ俄ニ敵ト正當ニ對位セザルベカラザルニ至ルコトアリ。或ハ未ダ戦線ニ入ラザル部隊ガ俄ニ敵ニ接近スルコトアリ。此ノ如キ戦勢ノ變化ニ對シ予メ一々之ニ應ズルノ戦法ヲ策定シ得ラルルモノニアラザレバ此等各部隊ノ指揮官ハ常ニ能ク應用ノ真理ヲ會得シ機ニ臨ミ變ニ應ジテ正奇兩攻撃法ヲ適用セザル可ラズ。

(攻撃ノ虚實) 以上ハ攻撃ノ正奇兩法ト其應用ニ関スル原則ヲ説明シタルモノナリ。然ルニ爰ニ又正奇以外ニ於テ攻撃ノ應用ヲ複雑ナラシムルモノアリ。攻撃ノ虚實、即チ虚撃、實撃是ナリ。虚撃トハ陽ハニ攻撃スルモ實際ハ攻撃ノ目的ヲ達セントスルニアラザルモノヲ謂ヒ、又實撃トハ攻撃ノ目的ヲ達セントスルモノヲ謂フ。單純ニ之ヲ言ヘバ、前者ハ虚偽ノ攻撃ニシテ後者ハ眞實ノ攻撃ナリ。此攻撃ノ虚實ハ一見攻撃ノ正奇ニ類似スルガ如クナルモ然ラズ。正奇ハ敵ニアル虚實ニ對シ我攻撃ヲ加フルニ就テ云フモノナレドモ、虚撃實撃ノ虚實ハ我ニアリテ敵ノ虚實ニ関セザルモノナリ。故ニ實撃ニモ正法ヲ以テスルモノト奇法ヲ以テスルモノアリ。又虚撃ニモ正法ト奇法ノ別アリ。例ヘバ正面ヨリ正々堂々攻撃スルト見セテ敵ヲ牽制スルガ如キハ正法ノ虚撃ニシテ、又夜中不時ニ空砲ヲ放チ探海燈ヲ点ジ奇襲ヲ装フガ如キハ奇法ノ虚撃ナリ。故ニ敵ノ攻撃ヲ受タルトキハ先ヅ其虚實ヲ判断シ、次ニ正奇何レヲ以テ攻撃シ来ルヤヲ觀察シ、然ル後之ニ對スル適當ノ處断ヲナサザルベカラズ。此實撃、虚撃兩法ヲ巧妙ニ應用スルトキハ、敵ノ我ガ實撃点ノ何レカアルカヲ判断スル能ハズシテ其防禦スベキ處ヲ知ラズ、是ニ於テ敵

二乗スベキノ虚アルヲ発見セバ機ヲ失セズ正奇両法ヲ適用シテ實撃ヲ加へ、以テ敵ヲ撃破ス。孫子曰ク「兵ハ詭道ナリ故ニ能クシテ而シテ之ニ能ハザルヲ示シ、近キテ而シテ之ニ遠キヲ示シ、遠カツテ而シテ之レニ近キヲ示シ、利シテ而シテ之ヲ誘ヒ、乱レテ而シテ之ヲ取り、其備無キヲ攻メ、其不意ニ出ヅ」ト。此格言ハ戰略上ニモ適合スレドモ亦戰術上ニ於テ前記虚實正奇ノ諸攻撃法ヲ戰陣ニ適用スルノ要訣ヲ形容、教示セルモノナリ。而シテ實撃、虚撃モ正奇両法ノ如ク其應用ノ變化窮リナキモノニテ、虚撃ヲ為セル一隊戰機ニ乗ジテ急ニ實撃ニ轉ズルコトアリ。或ハ又實撃セル一隊戰勢ノ不利ヲ察シテ中途ヨリ虚撃ニ變ズルガ如ク、之ヲ應用スルノ方法ニ至リテハ固ヨリ一定ノ原則アルモノニアラズ。唯ダ戰勢ト戰機ノ轉變ニ應ジテ臨機應変スルノミ。正奇両法應用ノ變化窮リナキコト前段ニ述べタル如クナルニ、尚ホ其以上ニ實撃虚撃應用ノ變化窮リナキヲ知ラバ、戰術ノ應用ガ千變萬化スベキハ言ヲ俟タザルコトニテ、唯ダ適當ノ法ヲ適當ノ地ニ於テ適當ノ時ニ適用スルモノ勝利ヲ制スト云フノ外無シ。而シテ此適用ヲ誤ラザラントスルニハ我力量ヲ知ルト同時ニ敵ノ力量ヲ知り我ガ為スベキ處ヲ了知スルト同時ニ敵ノナサントスル處ヲ察知シ能ク戰勢ヲ觀察シ戰機ヲ先見スルノ智能ヲ具備スルニアラザレバ能ハザルナリ。是レ豈ニ独リ兵戰ノミナランヤ、凡百ノ人事皆然ラザルハ無シ。然レドモ兵術ハ元ト詭道ナルヲ以テ彼ノ正奇虚實ノ用法等ハ決シテ平和ノ人事ニ應用スベキモノニアラズ。唯ダ戰時乱世ニ處シ暴ヲ挫キ悪ヲ懲スノ手段トシテ適用スベキノミ。兵術ヲ講究シテ其理性円熟ノ域ニ達セザル者ハ知ラズ識ラズノ裡ニ其平時ノ言動ニ術理

ヲ濫用シ、往々世ヲ乱シ治ヲ破ルニ至ル。蓋シ兵術モ其深奥ニ至レバ正法ノ大本ナルヲ
悟得スルガ如ク人道ニ於テモ公明正大ハ其大本ニシテ所謂策士ナルモノ常ニ成功スベキ
モノニアラズ。

(終)